ＳＮＳ教育プログラム　レッスン３　学習指導案

１　単元名　　ネット社会でどのような行動をとるか考える

２　本時のねらい

インターネットやＳＮＳの問題や課題を自分のこととして考え、情報モラルについて話し合うことをとおして、インターネットやＳＮＳの適正利用のためにソーシャルメディア・ガイドラインを決めることができる。

３　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **時間** | **学習活動** | **指導上の留意点** |
| 導入（７分） | ・絵本を読む。（p１～５、p11～17）・映像（２つ）を見る。　○デジタルTATOO　○言葉は、弾丸にもなる | 指示：映像が伝えようとしていること、作成された意図は何かについて話し合おう。ネットトラブルは、背景にネット全般についての理解と対策が必要である。情報リテラシーの見方・考え方の視点で整理ができるように支援する。 |
| 展開１（５分） | ・コミュニケーショントレーニングを行う。　・隣同士で相談側Ａと受け手側Ｂの役割を交代しながら、相談した後の対応の違いによる感じ方を体験する。　・答え方の違いにより、どう思ったか、感想を共有する。　　　・ネット上の自分の発言がどう受け取られ、どんな結果を生むのか予想してみる。 | ・ワークシートを配付し、これまで学習したことを確認し、「実習１」をペアで行うよう指示する。＜指導のポイント＞・コミュニケーションは一方通行ではなく、双方向で意思が伝わることで成立すること。・ＳＮＳは、早く短時間で応答することができ便利なコミュニケーションツールであるが、文言を、今一度立ち止まって、客観視してみることが重要であり難しさを伴うこと。 |
| 展開２（30分） | ＜グループワーク＞・ルールを提示する。（※別紙資料１）・各グループで話し合われたことを黒板に書くなどして、クラス全体で共有する。・ルールを考えるのではなく、モラルやマナーを考える時間であることを確認する。・司会者や記録者などを各グループで決める。・ＫＪ法を使って、個人で考えたことをグループでまとめる。・発表して、各グループの内容を共有する。指示：各グループで考えたことを発表した後、クラスのソーシャルメディア・ガイドラインとして策定しましょう。・クラスで適正利用のためのマナー・モラル（宣言）をまとめる。 | 指示１：安心・安全にＳＮＳ等を利用するためのモラルやマナーを話し合おう。「振り返ろう！スマホの使い方」・便利さの一方で、トラブルのきっかけになることもある。例えば、どんなトラブルがあるか、こんな使い方は問題ではないか、考えを出し合う。指示２：ＳＮＳの適正利用のためにどうしたらよいでしょうか。「スマホ利用のルールを話し合ってみよう」・ルールと、マナー・モラルとの違いを説明し、マナーやモラルを考える時間であることを確認する。ルール：集団生活で守らなければならないことマナー：相手を不快にさせないための行為モラル：善悪の判断基準として振る舞うべき行動・「○○しない」といった否定表現ではなく、肯定表現を使い、トラブルや問題を回避するための方法や行動をアイディアとして出すように説明する。（※別紙資料２）・ＫＪ法の進め方について簡潔に説明する。説明する。・ソーシャルメディア・ガイドラインを策定することの意義について、ワークシートを用いて説明する。＜指導のポイント＞・ガイドラインはルールではなく、マナーやモラルを基にしたものとすること。・自律だけでなく、みんなで力を合わせて取り組むことで効果が上がると思われること。 |
| まとめ（８分） | 授業の感想を記述する。 | ・様々なリスク要因に出会い、被害に遭うこともあれば、上手に対処できることもあること。それには「抑止」ということの気づきが大切であり、その視点を確認する。 |

４　教材

・絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」

　　・映像教材「デジタルTATTOO」「言葉は弾丸にもなる」（公益社団法人ＡＣジャパン）

　　・ワークシート③

　　・ソーシャルメディアガイドライン作業シート

５　実践するにあたって

1. 概要

①この授業は、ピア・サポートの応用である。生徒が協働して、予防や問題解決の知恵を生徒の考えから出し、ピアサポーターとして、ＳＮＳ等のトラブル問題に対して、相互の交流と協力を促しながら、「見つける」「気づく」「止める」「フォローする」といった行動に結びつくよう意識付けるものである。

※ピア（peer）は「仲間」、サポート（support）は「支える」という意味があり、同じような

共通項と対等性をもつ人同士の支え合いを表す言葉。

②ソーシャルメディア・ガイドラインは、１時間の授業で策定することは難しいものであるが、授業の中で、その基となる考えや意識を促すことを目標とする。

(2)基本的なスタンス

○ネットを使わなければ危険はなくなる、という考えにならないよう、「禁止」ではなく「どう使うか」という視点で、積極的に、自分たちの課題としてとらえていこうという流れで取り組ませる。

○生徒が役割をもって活動を進め、意見交流、合意形成など他者と関わることをとおして、生徒一人一人の「心の居場所」となることが大切である。

○ 教師は、生徒一人一人の思いや考えを聞き出し、話合いに生かすよう支援する。

(3)工夫するとよい点

＜導入部＞

・「情報に関する見方・考え方」を働かせるため、「ルール」「マナー」「モラル」の３つの観点のうち、焦点化したいねらいによって、導入で扱う教材と量を調整する。

＜展開１＞

・良いか、悪いかの結果で判断するのではなく、その言葉に含まれる意思をどう受け止めたかという理由を考えるように促す。

・受け取り手側の感情を細やかに伝えるツールとして「表情カード」等を用いて、言動を意識化させるとよい。

＜展開２＞

・ブレーンストーミング、ＫＪ法などの手法を用いて、生徒が主体的に意見交流を進められるようにする。

○ブレーンストーミング･･･集団でアイディアを出し合う手法

○ＫＪ法･･･テーマに関するアイディアを出し、グループに分けて図解化し、アイディアをまとめる手法。気づかなかった問題やアイディアを発見することができる。　　　　　　(模造紙、色分けをした付箋紙又はカード、マジックなどを使用する)

【Point】・目的（何を求めるのか）を明確に示す。

・ルールを提示する。

・制限時間を設定する。

＜まとめ＞

・振り返りの時間をしっかりと設定し、ガイドラインの基となる案を認め、確認し、実践につなげるよう促すことが大切である。

・守らなければならない「規則」ということではなく、ピアサポーターとして実践していくことを確認する。

＜ガイドライン策定後＞

・個々の振り返りだけが行われることがないよう、学級、学年、全校集会、便りで保護者に発信する等、定期的な振り返りの場面設定をし、相互の交流や協力を促す。